

平成27年度第1回加美町総合教育会議議事録

開催日時 平成27年4月30日(木曜日)
午前10時30分～午前11時30分

開催場所 加美町役場3階 会議室

出席者 加美町長 猪股 洋文
加美町教育委員会委員長 村山 斌夫
同 委員 大場 幸
同 委員 田中 美知子
同 委員 大宮 信彦
同 教育長 早坂 家一

事務局 加美町副町長 吉田 恵
総務課長 下山 茂 教育総務課長 猪股 清信
同 課長補佐 川熊 裕二 同 主幹兼教育総務係長 太田 裕二
同 主幹兼総務係長 伊藤 一衛

議 題

1. 加美町総合教育会議の運営について
 2. 教育に関する大綱の策定について
 3. 平成27年度加美町総合教育会議のスケジュールについて
-

午前10時30分 開会・開議

○川熊総務課長補佐 只今より、平成27年度第1回加美町総合教育会議を開催します。はじめに、猪股町長よりあいさつをお願いします。

○猪股町長 みなさん、おはようございます。第1回目の総合教育会議となります。これまで折に触れ、皆さまと意見交換する機会はありませんでしたが、もっともっと教育委員会の皆

様と意見交換をしながら子供たちの育成への取り組みや生涯学習につながる今年度から新たな総合計画スタートしますが、この中でまちづくりの理念として「共生」そして「協働」「自治」に基づいてまちづくりを進めていくということです。

10年後のあるべき姿として「善意と資源とお金が循環する」というものを掲げておりまして、そのために重点施策として里山経済の確立、そして健幸社会の実現、3点目として子ども子育て応援社会ということです。ですから学校教育、社会教育における考え方ですが、同じ将来図を描いて取り組む必要があると思います。そういった10年後の将来図を実現するために、然らばどういった子供たちを育てていかなければならないか、どういった生涯学習計画をつくらなければならないかといったことをきちっと財政的にも取り組むことが大事だと考えています。

そして、共通認識を持ちながらいっしょにまちづくりの、そして教育行政の第一歩と考えていますのでよろしくをお願いします。

○川熊総務課長補佐 それでは町長の進行で会議を進めていただきます。

1. 加美町総合教育会議の運営について

○猪股町長 それでは、お手元にある次第により議事を進めさせていただきます。

加美町総合教育会議の運営について、教育総務課太田係長から説明をいただきます。

○太田教育総務係長：加美町総合教育会議の運営について私の方から説明させていただきます。

まず、お手元に配布している資料の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（概要）をみていただきたいと思います。これまでも教育委員会の会議で、また庁議において説明しておりますが、教育委員会制度が4月1日から法の改正によりまして、大きく変わったポイントとして、教育委員長と教育長が一本化したことによる新教育長の設置、ポイント2が教育長へのチェック機能の強化と会議の透明化、ポイント3として、地方公共団体に教育総合会議の設置、ポイント4として教育に関する大綱の策定となっています。

ポイント1については、3月の定例議会と教育委員会において、関係条例や規則の改正は終わっておりまして、法律の附則に改正前に任期を残している教育長については、任期中に限り従前の例により在籍するものとするということから、加美町においては、平成30年9月2日までは教育長と教育委員長が変わらず存在することになっています。

ポイント1と2につきましては、経過措置が設けられていますので当分の間このままということになります。

本日の加美町総合教育会議の根拠ということで、お配りした別紙の新旧対照表の2ページ目の第1条の4第1項に、地方公共団体の長は大綱の策定に関する協議及び次に掲げる

事項についての協議並びにこれらに関する次項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとするがあります。この法律に基づいて、本日の会議を開いております。以上です。

○猪股町長 皆さんの方から何か質問はありますか。

(「なし」の声あり)

2. 教育に関する大綱の策定について

○猪股町長 それでは2番目の教育に関する大綱の策定について、太田係長から説明をお願いします。

○太田教育総務係長 私の方から教育に関する大綱の策定について、説明させていただきます。資料のA3版の概要版と新旧対照表で説明いたします。

新旧対照表で大綱を策定する根拠について、新旧対照表の1ページ目左上に新設として、第1条の3に「地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする。」ということで、4月1日の法改正により教育に関する大綱を必ず策定しなければならないと法律で定められております。大綱の内容につきましては、概要版A3のポイント4にある大綱とは、「教育の目標や施策の根本的な方針」を定めることとしております。この教育総合会議の年間を通した大きな議題として、大綱の策定が中心になっていくものと考えております。この会議で町長と教育委員会が協議調整を尽くし、首長が策定することとしております。首長及び教育委員会は策定した大綱をもとにそれぞれに所管する事務を執行していくものとしております。

この改正法により、新教育長や教育委員会の組織自体は経過措置として規定されていますが、総合教育会議と大綱策定は、いつまでと明記はないものの、すみやかに対応しなければならないとしています。大綱の策定については、本日参加している皆さんの方から、どういうもの作っていかねばいけないのかを協議、調整していただければと思います。参考までに教育委員会の方では、毎年、「加美町の教育」を作成しており、本日、お手元に配布していますが、2月と3月の教育委員会定例会で承認をいただいたものです。内容は加美町総合計画を受けて基本方針等を策定しております。町民としてまちづくりの基本理念、町の将来像、新しい総合計画の大きな項立てを受けて、教育方針として重点施策と学校教育の目標、生涯学習の目標、重点努力事項を明記したものを参考資料としてお配りしました。

この大綱の策定する期間に関しては、国の考え方は毎年策定する必要はなく、地方自治体の実情に応じて策定するとしています。首長の任期が4年であることや国の基本計画が5年であることを踏まえて、4年から5年程度のものであることを国の方では想定して

いるようでございます。本日の皆さんの話し合いの中で調整等よろしく申し上げます。

○猪股町長 ありがとうございます。本年度については大綱の策定というのが総合教育会議の主たる議題となるわけですが、皆さま方から大綱についてのご意見等ございませんか。来年度もこの教育委員会の括りが原則になっていると思われまので、基本的にはこういったことをベースに町長部局で、まちづくりという主点を加えればよろしいのではないかと思います。

学校教育にしろ、生涯学習にしろ、将来町が目指す姿に辿り着くうえで大変重要な役割を教育委員会が担っていると思っています。今年度から地方創生ということで、すでに各自治体に取り組んでいるわけですが、町づくりがスタートするわけですが、まず、なんで人口が減少したか、特になんで地方の人口減少、高齢化が進んだかをきちんと把握することが重要だと思います。それと教育とは密接に関わり合いがあると思います。

皆さんはどういう考えをお持ちですか。

○大宮委員 人口減少について、各小中学校の生徒もだいぶ減ってきておまして、教育の均一化、同じ教育をできる状態でなくなっていることがあると思われま。いろいろ考えると加美町の子どもたちには均等に同じ教育をさせてあげたいと思っています。

○猪股町長 (少子化が) 教育にもだいぶ影響が出てきているということですよ。

○田中委員 平成15年あたりから学校が完全に週5日制になり、前の3年間というのは子供たちに、旧小野田町で活動支援コーディネーターをさせていただいて、社会教育の分野で様々な支援を経験した時代があったんですが、それはひとつの町の良さを子供たちに提供していく内容であったと思いますが、それは県の補助事業で50万円いただいて十分な活動資金があったからできたのだと思います。それが今、圧倒的に少なくなっている、公民館へのプログラム自体が少なくなっているゆえに、子供たちの視点が狭まってきていて学校の中でしか活動ができなくなっているということがあって、公民館で様々な事業を提供しても、入ってこない、応募してこない。学校以外の経験というものが圧倒的に少ないと思います。ある意味視野が狭まってきているということが大きな特徴として今あると思います。

人口減少というのは、今加美町が積極的にしていただいている子育て支援のこともありますが、もっともっと地域の人に関わって、「ここっていいところなんだ」ということを子供たちに認識させることがすごく大事なことだと思います。町を出て大学に行っている子が夏休みに集まってくると最終的に帰ってきたいという深刻な…。心にプラス思考を今黙っていてもしていけるといいなと思っています。

○猪股町長 子供たち、地域との関わりが薄くなってきているかもしれませんね。

○大場委員 教員の質の向上を図るべきではないかと思います。この計画を読んで学校教育の充実ということを非常にうたわれて、子供たちが笑顔で元気の子供たちを育てるというのは、家庭の力もありますが、やはり教員の研修も必要ではないかと思います。

私の経験上、常にいつ潰れてもおかしくない私立の学校にいたので、いつも言われてい

たことは、魅力ある学校づくりなんだということを言われていまして、学校というところは、楽しくなければ学校はダメなんだ、授業が面白くなければ何の魅力もないんだ、魅力づくりはそこから始まるんだと。そのためには、町の教員一人ひとりの研修のあり方、県の指導どおりにはやっていると思いますが、独自の、この町で学びたくなる、移住したくなる、この学校で学びたくなるような学校づくりをやれば、ある程度よろしいのではないかと思います。現状の場合だと、複式学級の解消は教育委員会の一つの課題となっておりますけれども、これも非常に大事なことだと思います。やっぱり子供たちが2つの学年がいっしょになって半分ずつしか授業を受けられない。先ほど大宮委員さんが言いたかったことだと思いますが、そういったものを解消して学校を魅力ある学校づくり、要するにこの学校で学ばせたいといった、東京都などでは、自分で区域外に学校を選んでいい、親が選択して、他町村の子供を加美町の学校で学ばせたいんだと。例えば交流人口を増やして子供たちを国際的な理解とか他にない魅力を持たせるようなものをどんどんつくってやっていくことがこれからの大綱に盛り込んでいただいて、協働のまちづくりの中に行政の力をそして教育委員会の教育方針に進んでいくべきだと。まちづくりに協力し、住みたくなる、移住したくなる、加美町の学校に来たくなる魅力ある学校づくりは何だろうかということを考えていきたいなと思います。

○猪股町長 教員の質の向上ということの意見をいただきました。

○早坂教育長 人口減ということが、町の活性化あるいはそこで生活していた子供たちにも影響しているのか、人口減によって複式のために、本来45分あるいは50分の授業を先生といっしょにできるはずなのに、半分の時間が自学自習なんです。それは複式の先生方の努力によるところも大きく、通常の先生の2倍から3倍の努力が必要なんです。先生方の極限の努力により、複式学級の学力が保証されているところです。本当は、大宮さんも話していましたが、すべての子供たちに平等に、時間的にも内容的にも同じ機会をとということが必要なのかなと思います。加美町の大きな課題だと思います。

家庭教育、学校教育、社会教育の3つがあると思いますが、子供にとってはすべてが学ぶ機会なんです。学校の果たす役割、家庭の果たす役割、地域社会の果たす役割、それぞれあると思いますが、それぞれの立場で本当に子供たちに十分に機会を与えているのか、その関わっている大人が子供のことを意識して関わっているかとか、学校は関わっていると思います。それが仕事です。関わっているけれども、大場委員さんが話したように、今に満足しないで、自分自身に子供に勉強しろという以上は、先生も勉強している姿を見せる、勉強の仕方だけでは、中身だけでは、知識だけでは、そういう意味でもう一步突っ込んだ取り組みをするための、私はこの会議は見直しをするためのいい機会だと思います。

まず、加美町の課題は何なのか。教育行政の課題としてどんなのがあって、例えば27年度はこれでやっていきましょう、そうしたときに大綱という形だけではなくて、教育の基本方針、教育の基本目標、どういう子供を育てるのかを照らし合わせたときに、課題とそれに対する具体的な対策が漏れているものがないのかどうか。もし具体的なものができ

たときにそれがどこまで実践されているか。新しいものをやるだけではなくて、今度の計画でもそうですが、計画をつくってそれをどこまで実行できたか、その検証はどこまでできているか、じっくり考える機会があればと。この総合教育会議はそういう場で捉えて、一つでも今まで不十分だったことができるようになれば、子供たちに還元されるのではないかと。そして将来の加美町を担うリーダーの育成にもつながっていくのではないかと思います。

今、話されたことをこれからどう大綱に盛り込んでいくか、大綱は基本方針なり目標になると思いますので、それを具体的に網羅されているかどうか皆さんの目で確認しながら、そしてさらに、それが出来上がったならそれぞれの部局で、それぞれの取り組みで、具体的にもっていくということではいかがでしょうか。

○猪股町長 総合計画の30ページをご覧いただきたいと思いますが、よくPDCAサイクルと呼んでいますが、加美町は敢えてPDSAサイクル。プラン・ドゥ・チェック・アクションではなくプラン・ドゥ・スタディ・アクションにさせていただきました。チェックからさらに進めてスタディがとても大事なのです。単なるチェックではなく、ここできちっと評価をする、検証をするステップを踏まないと改善につながっていかないわけなんです。実はこの会議は、PDSAサイクルも確認しあう会議になるような感じを今、話を聞いて受けたところです。

教育委員長の方から何かございますか。

○村山委員長 いろいろ話が出ましたが、総合計画をもとに教育委員会では、すでに加美町の教育というものをつくって、実施に入っているわけですね。それで今後の教育会議の運営にも関わりますが、いろいろ話しを出し合って対処していくことが必要ではないかと感じました。

教育長が言いましたが、家庭、学校、地域の役割といったことも必要な気がしました。

○猪股町長 実は先日、教育長に学校の先生方の研修会の講師に私を招いてほしいと要望したんです。というのも、学校の先生方の多くは町外からの方で、町のこともご理解いただけないこともあるし、特に加美町がどういうまちづくりをしようとしているのかを先生方にご理解していただきたいと思っています。議員の中でも断片的には理解しているけれども全体像がはっきり見えていないという部分もあるんだろうと思うんです。そういったところは冒頭にも申し上げたとおり、共有していきたいと思っています。

地方創生の総合戦略を10月までに策定することになっておりまして、ケースによっては、そういったことも先生方にもきちっとお伝えしたいと思っています。

地方創生、加美町の総合戦略の中で一番大事なことは、人口減少に歯止めをかけることは全国的なテーマですが、一番大事なことは、田中委員もおっしゃったように、いかに魅力あるまちをつくっていくかということなんです。それを町民自らが、魅力だと、すばらしいと理解して、自覚していくかが問題なんです。何で首都圏に人口が集中したかといいますと、首都圏に魅力があったからなんです。皆さんも若いころ東京に憧れまし

たよね。ただ戦後70年を迎えて、本当の豊かさとは何なのか、本当のすばらしさは何なのか、ということ私たち自身が意識を変えていかなければならないし、それから若者たちにもそのすばらしさを理解してもらわなければならないし、それをきちっとやる受け皿としての仕事というものもやろうと思っています。

ご承知の通り、総務省で今年度アンケート調査した結果、全体の37%の方が田舎暮らしをしたいという欲求があり、その中でも20代の方が一番高く約39%の方が田舎暮らしに憧れを持っているんだそうです。ですから若者たちは裏側の魅力というものを感じ始めているんですね。昔と比べて田舎暮らしに関するテレビ番組も増えてますよね。そういったことも影響しているだろうし、都会での息苦しさや様々な矛盾ということも感じているんだろうし。私たち自身がこういった田舎のお宝をよく知り、子供たちにもそれを伝えていくことが根本的な問題として、私は非常に重要なんだと思っています。その先に首都圏から田舎への若者を中心とした人口の移動というものが生まれてくるんだらうというふうに感じます。

その魅力をつくる中で、学校教育あるいは社会教育というものが非常に重要な役割を果たします。加美町の学校で子供を育てたいというふうに思ってもらえれば、学校教育が非常に大事だろうし、移住定住してくれる方は加美町に来てどういうふうに生活をエンジョイできるのかということ、様々な文化活動なり、スポーツなり加美町に来たら、そういった活動を通して、すぐにお友達ができる、生活がエンジョイできるといった体制も非常に大切になってきます。

私は地方創生の中で、学校教育や社会教育の果たす役割はとても大きいものがあると思います。皆さまが作り出した視点で、学校教育、社会教育になお一層取り組んでいただきたい。

また、教員の質の向上についても、先ほどもお話ししましたが、町独自の研修というものがあってしかるべきだと思いますし、加美町の学校で子供たちに教育を受けさせたいと思っていただくために、どういう加美町の教育の特色を出していくかということが大切なんだらう思います。お隣の色麻町は小中一貫教育を実施してますね。然らば加美町はどういうようなことをやっていくか。その中で田中委員が言っている学校教育、社会教育の中で受け持ってくれるものが大事なんですね。社会教育部分で他とはどのような違いを出せるのか。体験学習といいますか、自然とのふれあいや地域の人々との関わりといいものが非常に重要になってきます。今、実は上多田川小学校の跡地利用も、そういうことに活用できないか考えもあります。いろいろな方に来ていただいています。九つある加美町の小学校の体験学習の場として、上多田川小学校の跡地を活用できないだらうかということも考えております。それもこれも町長部局、教育委員会といっしょに取り組んでいきたい。

それから統合の問題も学校がなくなるということは、地域にとっては大きな問題なんですね。子供たちが少ないとはいえ、ここに学校があって、子供たちが通学をして、子供たちの声や遊んでいる様子が見えることが、地域の活力になっているんですね。その学校が

なくなることをとても悩むわけですから、単に複式学級を解消しましょうというお題目だけで統合を進めるべきではないし、これまでの反省を踏まえて、地域づくりとあわせて自ら答えを出す、地域の方々が上から言われて「はいわかりました。統合します。」というのではなくて、地域の方々が自らがいっしょになって話し合いをし、この地域でどうしていくか、そのために学校をどうしていくか、子供たちの教育をどうしていくか、跡地をどうしていくか、といったことを含めて教育委員会と町長部局といっしょになって、地域の方々と話し合いながら進めていくことが大事だと思います。こういう会議の場を利用して、大綱の中に盛り込んでいくことも大変重要なことであると思います。

皆さんから何かありますか。

○田中委員 去年学び支援というコーディネーターをさせていただいて、子供たちは一生懸命勉強はするけれども、なかなかそれが定着につながっていかない、家庭学習の定着につながっていかない、学力向上には一足飛びになかなか定着には難しい状況です。実際には加美町の小中校生の成績は少し上がってきているというふうには伺うのですが、その中で私は秋田県でどうしているのかということで、1年目はその施策を仕切っているトップの方に来ていただいて、真ん中では、職業を子供たちにどう見せていくか、志教育ということでNPO法人の代表の方に来ていただいて、3年目に学校の校長先生と保護者に来ていただいたんですね。それは先生方の定着させるべき努力を40年間積み重ねてきた結果だということがよく分かったんですけれども、早坂教育長も頑張っておられますし、とにかく親が勉強しなさいと言わなくてもするようなシステムを構築していらした、やっぱり学校なんだと一つ確信に近いものを私は感じたんです。

それにもう一つは、学力の定着への先には何があるかということ。もっと自分たちがしたいことは何なのか、それが結局は、小学校のころの体験の差に、出てきていると思うんですが目指してるものが大きいなと思うんですね。じゃ高校、大学いったときに、経済的な問題がすごく大きくて、私立で1千万以上、公立でも何百万円といわれているように、やっぱりそこで行かせられる子と行かせられない子ということで、教育委員会でも奨学金を出しているんですけれども、私はやっぱり自分がしたいと思うことは勧めて外に出て、世の中はこう回っているんだということを見せて、こっちに帰ってくるというふうには、そういう流れをつくっていきたいと思って、経済的なことで左右されないように、今よりもっと奨学金の方にもというふうにも思っていますけれども。まずもってそこを志すという取り組み、ためになる、いろんな関係で幼稚園、小、中、高と見てきましたけれども、やっぱり基本は小学校かなというふうに思うところに今あると。そういう意味ではそれは、いろんな取り組みを働きかけていますが、学校のスケジュールに余裕がない。各週土曜日というのも部活動がありそう簡単にはいかない。でもずっと子供を育てていくうえで一番学校のサイクルあるいはPTA活動のある中で、あの時間帯がベストだと思う。保護者としてPTAとして子供たちと一緒に過ごしてきて思っていることは、そう簡単ではないことは分かるんですけれども。

○猪股町長　そういうことも含めて、加美町の教育として考えていきたい。これは難しい、できないことと思わずに、何がベストなのか。経済的な支援についても、加美町は若鮎奨学金がありますが、私が考えているのは、育英資金について、子供たちが就職しても、なかなか返すのが大変なんですよね。社会問題にもなっていますが、町としてもそういったものに対してどう支援できるのか。例えば加美町を出て戻ってくる若者に対しては、減免といいますか、返還金の一部を補助するとか。そんなことも含めて経済的な支援ということもやっていく必要があると思います。町民憲章に「愛　ふるさとに帰る」とありますけど、子供たちの思いがあっても実際に戻ってこれない状況もあるわけですから、戻ってこれる環境をどうつくっていくかということも町としては、とても大事な取り組み、これからの課題だと思っております。

ほかにどうでしょうか。

○大場委員　田中委員から学力の問題に触れてましたけれども、学力云々のことを義務教育の中で主張していいのかと常に思っている一人ですが、もちろん学力は大事だと思います。私、もっと大事なものは志教育ではないかと思っているんですね。世の中に出てきて、どんなことがあっても自分の考えをまとめてきちっと話せる人材を義務教育の中では、ある程度、学力というのは、学校教育、家庭教育、社会教育といったもので学ぶことがあると思います。でも義務教育の果たす役割というものが、家庭教育、社会教育の責務を果たすのが学校教育だと思います。コミュニティスクールがスクールコミュニティに代わっていくというのも何となくわかるような気がします。そこで話変わるんですけども、学校と図書館教育ですね、やっぱり今、読書をしない子供たちが非常に多いんですね。読書をするということ、やっぱり本に触れて、自分の考え、そういったものをまとめ上げていく、私、小野田中学校にいて非常にうれしく思ったのは、子供たちが文化祭の時に英語弁論で話しているんですね。もちろん指導受けていろいろあると思うんですけども。英語で会話できるんですね。やっぱり自ら学ぶ姿勢が何か違うと思うんですね。もちろん、点数が高ければ云々と世の中そういっただけで人間ができてくるのかと。予備校に務めたこともあるので、見てると違うんですね。学習偏差値は高いけれども、社会的偏差値は非常に低いアンバランスな人間も見かけてきて、やっぱり大事なものは、志教育の中で将来どんなふうになりたいのか、どんな人間、そしてやっぱりちゃんと大人になっても自分の考えをまとめてお話しできる、主張できる人間を、ベースを義務教育でつくってあげたらいいのかなと私は思います。もちろん、音楽とか芸術も大切ですが、やっぱり自分の考えをきちっと持って、自分の主張ができるような人間を形成できるベースを、学校には図書室もあると思いますが、学校と図書館での学習といったものが大事ではないかなと思います。学力の基本は昔に戻ればいいんじゃないかなと、『読み・書き・そろばん』がきちっとできるということですね。今は字を書けと言ってもなかなかぐじゃぐじゃと、どういう字を書くかわからないし、メール打つのは得意ですけども、私たちが基本を忘れられているようなことがたくさんあるんじゃないかなと。そういったことで加美町に行ったらこういう教

育を受けられるんだと、パソコンや何やらと最先端をいくのもいいかもしれないが、手書きの良さを教わったとか、本を読んで自分の考えをまとめられることができるようになったとか、子供を豊かに育てることが大事だと思います。

○猪股町長 ほかに何か。

○大宮委員 子供たちには必ず加美町から出て行って、例えば仙台や東京に行ったときに、自分たちが住んでいる加美町をどういうふうに思っているのか。人に自慢できるというか、明確にこういう町なんだよというビジョンを持たせてあげたい。例えば中新田だったら中新田地区の子供たちは分かると思うんですけども、加美町はひとつになっているのですから、宮崎、小野田のことも全部、虎舞や宮崎には陶芸の里があってとかといった自慢できる子供たちを送り出してあげたい。そしていつか自慢が誇りになって、加美町に戻ってきて、自分たちも、ここで生活しようという気持ちを、与えるような何かをつくってあげようと感じます。

○猪股町長 今話を聞いて思うことは、基礎学力と同時に志というものも大事であると思います。加えて郷土への誇りですね。そういったものを子供たちに与えていかなければと思うし、子供たちを育てるということに目がいきがちですが、実は大人や親を育てることがとっても大事なですね。子供たちは親を見てますから、生涯学習の分野になると思いますが必要になってくると思います。

実はうちの息子は不登校だったんですが、今立ち直って学校の教員をやっておりますけれども、私が気付いたのは、自分が変わらなくてはいけないことだったんですね。われわれ親が、大人が変わっていくことがとても大事だと思いますので、そういったところにもなお一層力を入れていかなければならないし、志教育をすすめるにあたり地域の方々のもっともっと、学校教育に関わることもあるんですけども、一部かかわっている部分もあるんですけども、私がアメリカのあるコミュニティスクールにいたときに、とにかく地域の方々为学校教育に入ってきて、自分の職業について話しをするんですね。例えば宇宙開発に携わっている人が、「なぜ火星探査機を着陸させるときに立ち合ったんだとか、火星にはあくまで未知のものがいっぱいある、それを発見していくのは君たちなんだ」と話をし「宇宙に将来関わりたい子供たちは」と言うと、みんなハイハイと手を挙げるんですよ。そういう自分の仕事に対する情熱、熱意を地域の方が話すんですよ。そういうことが、今も素晴らしい志教育をやっていますが、子どもたちが志を持つということが非常に大事だと思うんですね。目標を持つということですね。実は私、中新田中学校には毎年よばれて、道徳の時間、地域の話とかしているんですけども、ほかの学校からお声がないんですね。「僕は、私は将来、町長になって加美町のために努力したい」という子供たちが出てきていいと思うんですよ。あるいは、将来議員さんだっていいと思うんです。そういうことも含めて、もっともっと地域の方々为学校に入り込む必要が私はあると思っています。

そんなことで、最後、まとめみたいな感じですけども、人が来る、地域の人に出てきてもらう必要がある、志教育、志を持つということが大事ですね。そして、郷土に対する

誇りを持つ、そういう子供たちを育てるためにも、大人が変わっていかなければならないし、大人も学校教育に関わっていくべきだと感じているところであります。

3. 平成27年度加美町総合教育会議のスケジュールについて

○猪股町長 最後に、今後のスケジュールについて説明してください。

○伊藤総務係長 第2回目を9月の下旬に予定しまして、その会議の際には、大綱に盛り込むべき事項についてご意見をいただき、それらを踏まえまして、教育総務課と話し合いを持ちながら、大綱の素案をつくりますので、それを11月中に配布して、11月下旬くらいに3回目の会議を開きたいと思います。また、その会議では、次年度の学校教育、社会教育に関する予算、事業等々も協議していきたいと思います。最終的には2月の下旬に大綱について皆さまとの協議を経て策定しまして、3月中に公表といった段取りで進めていきたいと思います。

なお、総合教育会議につきましては、原則公開となっておりますので、傍聴の希望があればそれを拒むことなく、原則的には公開となります。また、会議の内容についても、会議録の作成が義務付けられておりますので、こちらの事務局側で作成いたしまして、出来上がり次第、委員の皆様にはお配りしていきたいと思います。以上です。

○猪股町長 このことについてご意見ございますか。

(「なし」の声あり)

○猪股町長 それでは、今日の会議はこれで終わりにしたいと思います。ご苦労様でした。

午前11時30分 閉会